

**鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会
議事録**

日時：令和5年5月14日（日）

10：00～11：40

場所：新在家町公民館

【出席者】

■住民：57名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	公室長	平井 貴志
	〃	副理事	森川 護
	〃 政策推進課	参事	寺田 荘史
	〃 政策推進課	副参事	衣川 智久
	〃 政策推進課	主査	関本 敏晴
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太郎
	総務部	理事	丹羽 和人
	〃 防災危機管理課	課長	竹下 博和
	〃 資産活用課	課長	浅田 明典
	生活環境部	副理事	川本 勝也
	建設部	副理事	寺田 満夫
	〃 水みどり課	課長	宮城 陽一

【議事次第】

1. 開会
2. 出席者紹介
3. 資料説明
4. 質疑応答
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン説明会 居住性向上エリアC 1回目 ～エリアの将来予想・取組の方向性の共有～
- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

●質疑応答

1	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼まちづくりグランドデザインのエリアに新在家2丁目は入っているのか。 ・新在家2丁目のエリアの説明会は始まっているか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・新在家2丁目は、鳥飼まちづくりグランドデザインの1エリア(人ともものが集まる賑わい(核)エリア)に該当する。今回の説明会のエリアからは外れている。 ・新在家2丁目が含まれる1エリアやこれまで説明会を開催していないエリアについては、順次開催する予定である。開催については、広報や市ホームページ等でお知らせする。
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・予算はどれくらい取っているのか。 ・地域資源には、ここにはない新しいものを作り出すのも含まれる。例えば、市民病院やコンベンションセンター等。まちづくり全体を考えるにはどこか欠落している。自然科学の視点から考えれば現存するまちの魅力は地域資源だが、社会科学の視点から考えれば、将来のまちづくりには新しい建物が必要。まちの核となるキーステーションやキーパーソンが必要。地域資源の活用だけでは魅力的なまちづくりはできず限界がある。 ・昔からこの地域に住んでいるが、いつも何か足りないと感じていた。すると、南摂津駅ができた。これは大きな成果である。建物がダメだと言う人もいるが、魅力づくりには建物が必要。 ・茨木市、吹田市、高槻市と比較すればよい。吹田市は市民病院がある。摂津市には病院の数が少ないので吹田市のような公立病院が必要である。 ・コンベンションセンターも必要である。摂津市にグローバル性は必要ない。ローカリズムでよい。ローカリズムに親しんでくれる外国人は来るので、コンベンションセンターで外国人とつながるようにすればよい。必然的に東南アジアから外国人が来る。 ・鳥飼まちづくりグランドデザインについてはよいことだと思う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で予算を取っているものではなく、鳥飼まちづくりグランドデザインではまちづくりの方向性を記載している。今後、皆様と方向性や将来予想、取組の方向性について頂いた意見等を含めてワークショップ等、小規模の協議体を作り、そこで議論していく。 ・ご意見については、ご意見シートに記載していただきたい。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水が来たらこのあたりの住宅は2階建てばかりだが、どのように避難すればよいのか。災害はいつくるかわからないので、それならば、大規模な集合住宅を造って高齢者に移ってもらう。その方が安全ではないか。避難は上層階にすれば良いのではないか。モノレールで避難するより安全だと思う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模高層階の住宅についての意見があったが、淀川の想定最大降雨が降り、破堤すると、最も深いところで浸水深7.3mとなる。ハザードマップには淀川と安威川が氾濫した際の重ね合わせ図が記載されているが市内の約8割が浸水する。地震時に使用可能な一時避難場所も使用不可となり、各小学校や中学校の避難所は2～3階まで浸水する。上階への避難は可能だが、1度浸水する

		と安威川以南の地域で2週間水が引かない状況となるため孤立してしまう。トイレや食料品をどうするのかということも考えると上階へ避難するのは難しい。そのため、市としては広域避難を推奨している。市としては、避難先として民間会社と災害協定を結んでいる。しかし、避難者全員(6万2,000人)の避難場所の確保ができていないため、自助の観点から自らがどのようにして逃げるのかをご検討いただきたい。
4	住民	・洪水というのは1日あるいは3日間の雨量がどれくらいになると洪水が発生すると思うか。洪水が起きるタイミングはあるのか。
	市	・淀川の場合は24時間で360ミリの降雨があった場合、淀川河川事務所のシミュレーションによると、破堤する。安威川については、安威川ダムがまもなく完成する。河川の整備はすでに完了している。ただし、想定最大規模の降雨が発生すれば安威川も破堤する。
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼まちづくりグランドデザインの認識度は低い。各地域で諸会議が開催される際に市役所職員が出席して鳥飼まちづくりグランドデザインを説明するのもよいと思う。一例であるが、鳥飼地区シニアクラブ連合会の定例会にも福渡副市長が出席したこともある。 ・河川防災ステーションを本店とするなら、新在家に支店を持ってきたらよいのではないか。この公園(新在家ちびっこ広場)の半分を市有地として20エリアの拠点となる準公民館施設(河川防災ステーションのサテライトオフィスとなるような)とすることを望む。 ・当地での建設が望ましいのは、鳥飼地域の中でも人口密集地であること、また、準公民館施設があれば地域に根付くコミュニティ形成がされやすく、地区防災活動の活発化も望めるのではないか。遊具等もあるので、誰もが集える場が創設されやすい。 ・高台が少なく近隣の集会所は老朽化が進んでいる。堤防は海拔5mくらい。浸水深によっては車中泊やテント泊等の堤防の利活用できるのではないか。堤防と直結している公民館からヘリコプターでの救出や物資の受給が可能ではないか。昭和28年の台風13号で高槻市の芥川が決壊した。その際堤防に逃げてきた人がいた。 ・40年前に市から新在家自治会に対して味生公民館の建設要請があった。当時は自治会の都合もあり実現しなかったが、この地に公民館を建設要請する理由があったのではないかと思う。 ・準公民館施設の条件として浸水しない高台、ヘリポート付き発着場、堤防から屋上への車いすで昇れるようなスロープ、フリーWi-Fiの設置、太陽光発電等の電源確保、避難行動要支援者の緊急避難所、平時は飲食可能なスペース、市民文化活動できるスペースが必要である。 ・新幹線側から公民館までの7-19時までの通行禁止を撤廃。新在家の中は道が狭く、歩行者が危ないので堤防上を通るのが良いと考える。合わせて、新在家1丁目、2丁目の北側を通行するトラックは地域の関係企業の許可車両のみとしてほしい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・新在家のファミリーマートの三叉路に信号機を設置してほしい。 ・避難の観点も含めて、新野々から橋を架けて堤防上に直結する道を造ってほしい。 ・新幹線側から川沿いの斜面を使用し、道で車両交差できる場所を造ってほしい。 ・非常用水洗洋式トイレを設置してほしい。 ・堤防の下は神安土地改良区。上は市が管理。法面については昔は大阪府だが今は市の管理。つまり、堤防の活用は市で対応可能と考える。 ・耐震診断、耐震化の推進。阪神大震災では死亡者の8割が建物の倒壊等による圧死であった。特に道の両側の家は、耐震化の推進により家屋倒壊を防ぎ、災害時でも車両が通行できるようにしてほしい。 ・震災時には、自宅避難の推進。ホームサバイバルトライアルの推進。避難所生活の中でストレス等やトイレ問題による水分補給不足での脳梗塞の発症やエコノミー症候群を防ぐことができる。 ・20年前に鳥飼北小校区でひったくり死亡事故を契機にセーフティーパトロール隊を発足。 ・防災士取得アピールを強化したらどうか。合格による補助金の増額や支給の短期化。 ・要するに、当地(新在家ちびっこ広場)の半分程度を市有地としてこの地に準公民館施設の建設を強く望む。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・準公民館施設については、資料の35頁に記載している将来予想にもつながるものとする。頂いた意見については市で整理して8月下旬に2回目の説明会を開催予定なので再度お示しし、段階的に議論を進めていく。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・新幹線側道から当公民館付近までの新在家地区で7時から19時の車両通行規制についてのご意見を頂きましたが、鳥飼八防の自治会長からも鳥飼八防地区内の道路について7時から9時などの車両通行規制に関してのご意見を頂いている。府道の交通渋滞を避け、車の抜け道や道幅が狭く車同士のすれ違い(離合)が難しいことから地域の声を受けて警察が規制をかけたと見受けられる。交通規制に関するご要望については摂津警察署の交通規制に関わる部分が多いので、警察署へ地区の現状、課題等について申し送りする。 ・水路沿いの堤防の法面の補強や天端の道路拡幅については構造上や土地の権利関係等を整理する必要があると考える。頂いたご意見を踏まえて関係機関等に伝える。
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会というのは地域包括ケアという概念がある。その考え方で問題が解決できる。 ・上町断層帯の方が摂津市には影響は大きい。学者等の有識者会議はしていないのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府などで有識者会議をしている。
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県珠洲市で発生した地震で親族が電話が繋がらなかった等、備蓄品を含む災害発生後の生活に苦労したと聞いた。近年、全国各地で地震が発生しており、近々、近畿地方にも来るのではないかと危惧している。摂津市ではどのような

		<p>備えをしているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に行った質問で未回答のものがあるので再度伝える。山星屋跡地に河川防災ステーションが建設予定だが八幡宮から河川防災ステーションまで備蓄品を取りに行くとなるととても遠い。新在家にも備蓄品が保管できる建物を造ってほしい。河川防災ステーションからその建物へ持ってきてもらうとなればその手段はどうするのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地震については、摂津市は上町断層帯地震 A に大きく影響されることとなり、約 1 万 1, 0 0 0 人の避難所生活者数を想定し、その際の備蓄品は大阪府と折半して 1 日分備蓄している。南海トラフ地震では約 1, 2 0 0 人の避難所生活者数を想定しており、3 日間の備蓄品を用意している。しかし、最低 3 日分の備蓄品は各自で用意していただきたいと考えている。 ・ 河川防災ステーションは、国土交通省の水防活動の拠点となる。災害時、水防センターは水防活動従事者の待機場所となる。平常時はコミュニティに資する場となる。水位が上昇したら水防活動の拠点。水害が発生したら近隣住民が命を守るための行動を取るための避難場所となる。水害に関する避難については広域避難を主眼においてほしい。

以 上